

網走運動公園再整備構想(案)

令和7年12月

網走市

目 次

1. 網走運動公園再整備構想の背景・目的	1
2. スポーツ施設を取り巻く状況.....	3
3. 検討対象施設の利用状況等の把握.....	18
4. 各施設の活用方針	22
5. 再整備の進め方.....	33

1. 網走運動公園再整備構想の背景・目的

1-1. 策定の目的

網走市では、人口減少、少子高齢化が進むなか、網走市公共施設等総合管理計画に基づき、公共施設の総量の縮小や既存ストックの利活用を進めており、スポーツ施設についても、施設の老朽化やニーズの変化に対応しながら、施設ストックの適正化および安全で多様なスポーツ環境の持続的な確保を図る必要があります。

なかでも、網走市においてスポーツ施設が集積する網走運動公園は、老朽化が進む施設も多く、今後の施設のあり方について検討が必要な状況です。

網走運動公園再整備構想（以下、本構想）では、およそ10年以内に更新を必要とする施設について、現状を把握しながら、施設の維持・統合・移転・廃止等の方針を検討することを目的とします。



図 網走運動公園における施設の配置状況

1-2. 本構想の位置づけ

本構想は、国や道の上位関連計画および網走市の上位計画に即するとともに、網走市の関連計画と連携・整合を図りながら策定します。

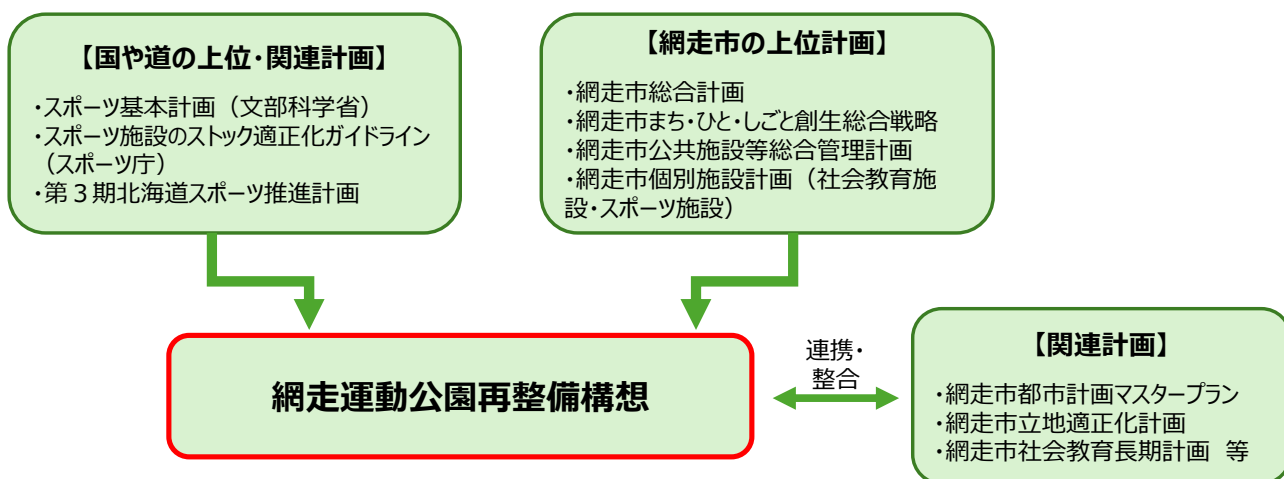


図 本構想の位置づけ

1－3．本構想の策定体制

本構想の策定体制は以下の通りです。

事務局が作成した案を「網走運動公園再整備構想検討協議会」に提示したうえで、パブリックコメントにより頂いた市民からの意見も踏まえて、検討を行いました。

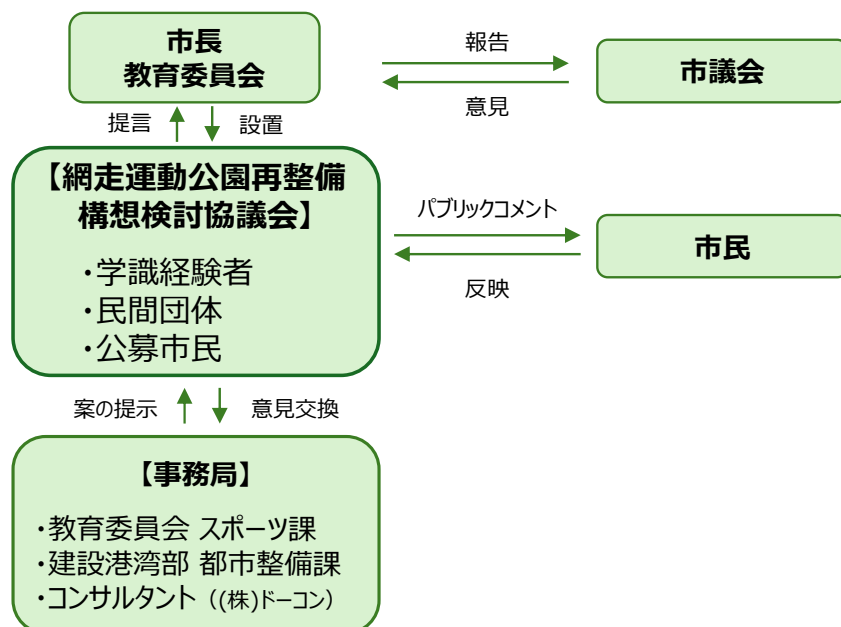


図 本構想の策定体制

2. スポーツ施設を取り巻く状況

2-1. 上位・関連計画の整理

ここでは、本構想への反映や整合を図ることを目的とし、国や北海道のスポーツ施設に関連する計画や網走市のスポーツ施設や都市計画分野に関連する計画の整理を行います。

本構想に特に関連が深いと考えられる内容は赤字で記載しています。

(1) 国や北海道におけるスポーツ施設に関する方針の整理

ここでは、国や北海道におけるスポーツ施設に関する計画について、本構想への反映や整合を図ることを目的とし、概要やスポーツ施設に関連する方針の整理を行います。

①第3期スポーツ計画（令和4年3月 文部科学省）

1. 東京オリ・パラ大会のスポーツ・レガシーの継承・発展に資する重点施策	<ul style="list-style-type: none">・持続可能な国際競技力の向上・共生社会の実現や多様な主体によるスポーツ参画の促進・スポーツを通じた国際交流・協力・大規模大会の運営ノウハウの継承・地方創生・まちづくり・スポーツに関わる者の心身の安全・安心確保
2. スポーツの価値を高めるための第3期計画の新たな「3つの視点」を支える施策	<ul style="list-style-type: none">・スポーツを「つくる／はぐくむ」・スポーツで「あつまり、ともに、つながる」・スポーツに「誰もがアクセスできる」
3. 今後5年間に総合的かつ計画的に取り組む12の施策	<ul style="list-style-type: none">①多様な主体におけるスポーツの機会創出②スポーツ界におけるDXの推進③国際競技力の向上④スポーツの国際交流・協力⑤スポーツによる健康増進⑥スポーツの成長産業化⑦スポーツによる地方創生、まちづくり⑧スポーツを通じた共生社会の実現⑨スポーツ団体のガバナンス改革・経営力強化⑩スポーツ推進のためのハード、ソフト、人材⑪スポーツを実施する者の安全・安心の確保⑫スポーツ・インテグリティの確保
4. 「感動していただけるスポーツ界」の実現に向けた目標設定	<p>全ての人が自発的にスポーツに取り組むことで自己実現を図り、スポーツの力で、前向きで活力ある社会と、絆の強い社会を目指す</p> <ul style="list-style-type: none">・国民のスポーツ実施率を向上・生涯にわたって運動・スポーツを継続したい子供の増加・子供の体力の向上・誰もがスポーツに参画でき、共に活動できる社会を実現・オリンピック・パラリンピック等の国際競技大会で、過去最高基準の金メダル数、総メダル数、入賞者数、メダル獲得競技数等の実現・スポーツを通じて活力ある社会を実現・スポーツを通じて世界とつながる

②スポーツ施設のストック適正化ガイドライン（平成 30 年 3 月 スポーツ庁）

適切なスポーツ環境の整備とストック適正化の必要性	<ul style="list-style-type: none"> • これまで、公共スポーツ施設の整備は必ずしも計画的に行われてきたわけではなく、整備目的が明確になっておらず、整備後の維持管理経費や運営経費、利用料金収入を事前に想定していないまま建設され、十分に活用されずに老朽化に伴い維持管理費が増加するケースも多い。 • 安全なスポーツ環境を持続的に提供するために、<u>地方公共団体ごとに、どのような施設がどの程度必要になるのか、将来の人口動態やスポーツの実施状況、スポーツ施設の利用状況等を踏まえた計画を策定する必要がある。</u> • 施設の老朽化や財政負担を考えれば、人口減少に伴い施設数が減少することも想定される。そのような状況下において、こういったスポーツ環境をどのように地域に提供していくのか、早期に検討を進めることが必要である。
スポーツ施設のストック適正化に関する基本的な考え方	<ul style="list-style-type: none"> ①様々な施設種別がある <ul style="list-style-type: none"> • <u>必要なスポーツ施設を全国一律に定めることは難しく、地域の実情に応じて決定していく必要がある。</u> ②目的に応じて最適な施設の規模や仕様が異なる <ul style="list-style-type: none"> • <u>地域住民にとって、最適な投資が行われるようストック適正化が進められることが望ましい。</u> ③利用料金の見直しも含めて検討することができる <ul style="list-style-type: none"> • スポーツ施設をより長期間、安全に利用できる状況を維持するためであれば、利用料金について柔軟な検討、運用を行う必要がある。 ④防災施設として位置付けられている <ul style="list-style-type: none"> • 災害時の避難施設に位置付けられている施設は、スポーツの観点とは別に、防災部局と連携し、防災上の位置づけを踏まえた検討が必要である。 ⑤周辺地方公共団体や民間との連携が想定しやすい <ul style="list-style-type: none"> • 広域連携により周辺地方公共団体や都道府県とそれぞれが保有するスポーツ施設の役割分担を行ったり、既存の民間施設の利用を促進したりすることにより、地方公共団体が自ら多様なスポーツ施設を保有する必要性がない可能性がある。 ⑥学校内に多くのストックが存在している <ul style="list-style-type: none"> • スtock適正化の検討に当たっては、学校体育施設の活用を同時に検討すべきである。 ⑦所管が複雑である <ul style="list-style-type: none"> • 身近にスポーツに親しむことのできる環境の整備を検討するにあたっては、所管や目的を越えて連携を図り、検討する必要がある。 ⑨PPP/PFIにより民間ノウハウの活用が見込まれる <ul style="list-style-type: none"> • スポーツ施設については、民間ノウハウを更に活用できるよう施設運用等における自由度を認めることにより、利用者に対するサービスの向上と財政負担の軽減を図ることが可能である。 ⑩大規模スポーツ施設を地域の資産として大会後に有効活用するべきである <ul style="list-style-type: none"> • 過去に大規模な競技大会を契機として整備された施設の改修、運用改善の機会においても、施設が地域のために十分活用されるよう検討することが望ましい。

③第3期北海道スポーツ推進計画（令和5年3月 北海道）

基本方針	今後5年間に総合的かつ計画的に取り組む施策
1 スポーツ参画人口の拡大とライフステージに応じたスポーツのあるくらしの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・様々なライフステージに応じたスポーツ活動の推進 ・子どもの心身の健全な発達と体力向上のためのスポーツ大会の機会の充実 ・スポーツに親しむ環境の充実 ・スポーツの観戦・応援の機運の醸成
2 北海道ならではの特色を生かしたスポーツによる地域活性化と共生社会の実現	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道ならではの特色を生かしたスポーツによる地域活性化 ・スポーツの成長産業化 ・スポーツでつくる優しい共生社会
3 どさんこ選手の国際競技力の維持・向上の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・競技力向上に向けたどさんこ選手の強化と指導者の充実 ・世界に羽ばたく次世代アスリートのすそ野拡大と発掘・育成 ・地域間・国際交流機会の拡大による競技力の向上 ・ウィンタースポーツの振興と競技力向上
4 スポーツの安全・安心の確保とささえる環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの安全・安心の確保 ・スポーツボランティアの育成 ・アスリートのセカンドキャリアの形成
5 オリンピック・パラリンピック競技大会のスポーツ・レガシーの継承・発展	東京・北京大会開催により高まった機運を一過性のものとせず、基本方針1～4を展開し、継承・発展させていく

（２）市の上位・関連計画等におけるスポーツ施設等に関する方針の整理

ここでは、網走市の上位・関連計画等におけるスポーツ施設に関する方針について、本計画への反映や整合を図ることを目的とし、概要やスポーツ施設に関連する施策の整理を行います。

①網走市総合計画

計画期間	平成30年度から令和9年度までの10年間
将来像	豊かな自然に ひと・もの・まちが輝く健康都市 網走
基本計画 目標4	豊かなひとを育むまち スポーツ の内容
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少・少子高齢化社会を見据え、既存のスポーツ団体はもとより、<u>企業、高校、大学など関係団体と多様な連携を図りながら、生涯にわたってスポーツに親しむことができる環境の提供が求められています。</u> ・本市の強みであるスポーツ合宿や障がい者スポーツ合宿、大会誘致をより一層進めることで、地域の活性化を図ることが重要となっています。
基本方針	誰もがスポーツに親しみ、心身ともに豊かなひとを育むとともに、スポーツによる交流人口の拡大を図るまちを目指します。
施策の展開	<ul style="list-style-type: none"> ①スポーツ施設の整備、利用促進 <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ施設の充実、適正な維持管理 ・学校開放事業の促進 ②スポーツ活動の促進 <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツに関する情報提供の充実 ・各種行事、スポーツイベントの開催 ・競技力向上の支援 ・スポーツ団体等との連携、支援 ③障がい者スポーツの振興 <ul style="list-style-type: none"> ・障がい者スポーツの普及、啓発、促進 ・障がい者スポーツ指導者の育成 ・障がい者団体との連携 ④活動組織や指導者の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ団体等の育成 ・指導体制の充実 ⑤スポーツ合宿や大会誘致 <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ合宿の誘致促進 ・スポーツ大会の誘致促進

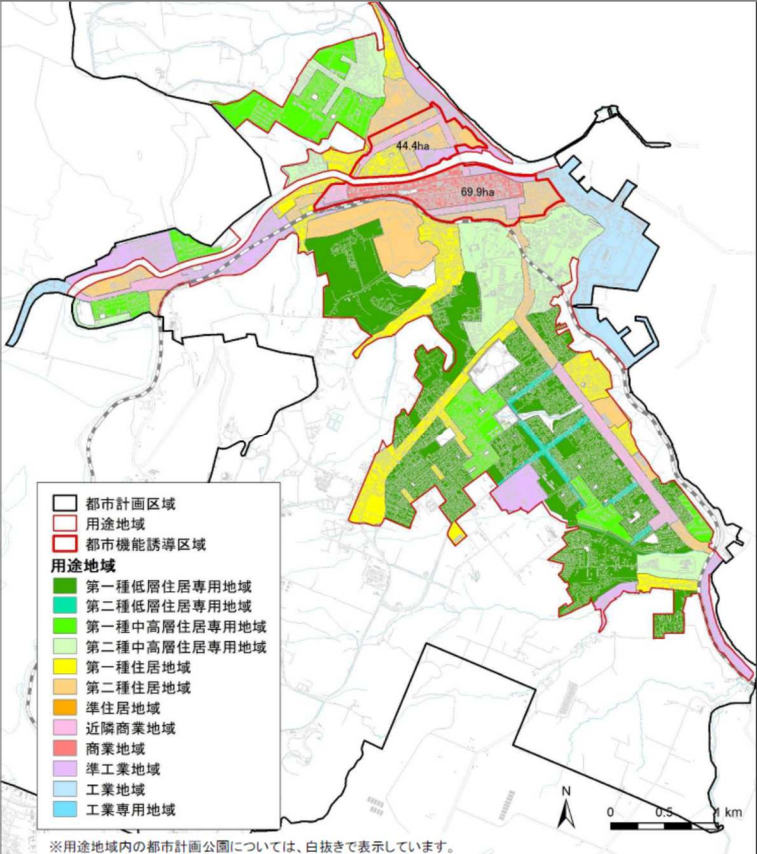
②網走市まち・ひと・しごと創生総合戦略

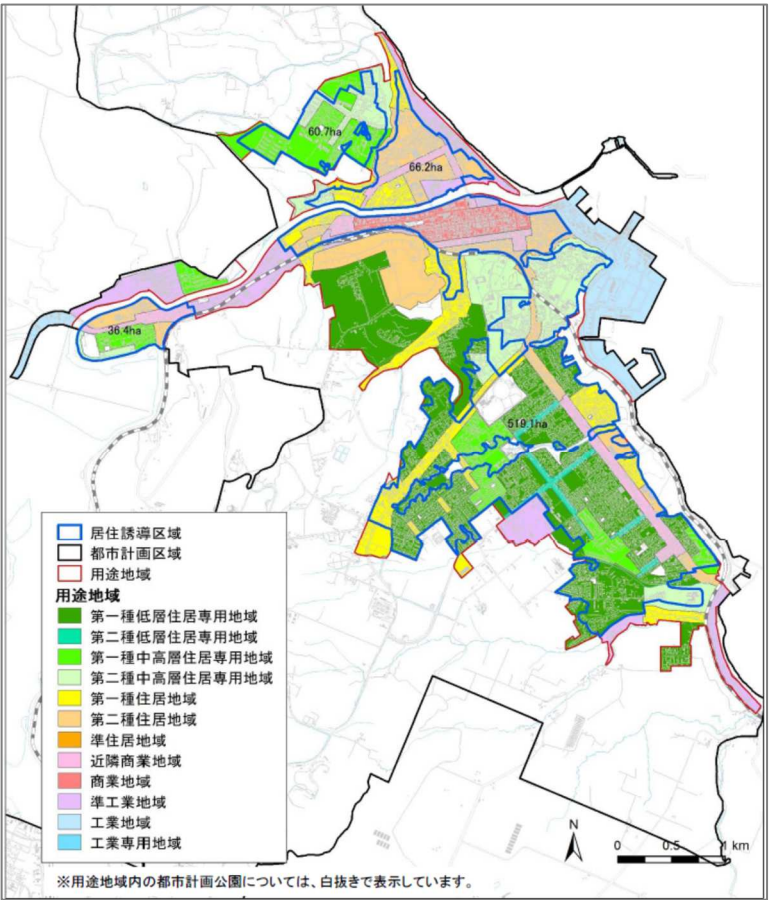
対象期間		令和7年度から令和11年度
第6期網走市総合計画との関係		「第6期網走市総合計画」の戦略版
スポーツ施設に関する事項		
スポーツ・芸術文化を切り口とした交流・関係人口の拡大		<p>自然・気候・食を活かし、マラソン、サイクリングなどのスポーツ・ツーリズムを拡大します。</p> <p>また、ラグビー、サッカー、陸上などの合宿誘致の拡大を目指すとともに、イベント、大会の誘致や受入環境の充実に努めます。</p> <p>さらに、芸術文化合宿やイベント、大会・会議の誘致、創出を促進し、交流・関係人口の拡大を図ります。</p>
具体的な施策	スポーツ・芸術文化を切り口とした交流・関係人口の拡大	<u>近隣自治体や関係団体との連携を深め、ラグビー、サッカー、陸上、障がい者スポーツ、芸術文化などの合宿誘致のほか、スポーツ大会、会議等の誘致</u> に取り組み、交流・関係人口の拡大を図ります。
	スポーツツーリズム・アドベンチャーツーリズムの推進	<p>スポーツイベントの開催により、まちをあげたおもてなしの向上を図ります。また、サイクルイベントや企業と連携したアウトドアスポーツなど、多種多様な観光資源をスポーツを通じて発信し、体験してもらうことで、観光ブランドの価値向上を図ります。</p> <p>さらに、アドベンチャーツーリズムのフィールドとして認知度向上を図り、流氷カヤックなど地域特性を活かした新たなコンテンツの商品化を目指します。</p>
社会教育の推進		豊かな人間性を育てる教育・文化のまちづくりを推進し、高等教育機関と連携した学習機会の提供と、市民自らの学習活動を支援するとともに、市民が生涯の各期にわたり、主体的・継続的にスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会の実現を目指します。
具体的な施策	日本体育大学との連携による市民スポーツ活動の充実	日本体育大学と地域のスポーツ団体との連携により、スポーツ指導やイベントを開催し、市民のスポーツへの意欲を高め、生涯にわたる健康増進を図ります。
	生涯スポーツの推進	スポーツ団体との連携により、各種スポーツ教室やイベントを開催し、市民がスポーツに参加する機会を設けるとともに、スポーツ指導体制の充実を図ります。
公共施設などのマネジメント強化と住環境づくりの推進		公共施設などの現状、将来の人口動態や財政状況を踏まえ、 <u>公共施設の長寿命化、総面積の縮小、多機能化および複合化により、インシヤル・ランニングコストを縮減する</u> ほか、誰もが利用しやすい環境整備に取り組みます。
具体的な施策	公共施設などの計画的な管理	公共施設等総合管理計画に基づく進行管理を行い、 <u>公共施設などの最適な配置の実現を目指します。</u>

③網走市都市計画マスタープラン

計画期間	平成15年度から令和4年度まで
位置づけ	北海道が策定している「網走都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」に即して定められるものであり、網走市における個別の都市計画は本マスタープランに即して行うことが求められる。
まちづくりの理念	自然をいつくしみ、心豊かに市民がつどい、オホーツクの文化を創造するまち・網走
スポーツ施設に関連する事項	
南部地域 地域の資源	整然と整備された住宅地を縫うように、地形の起伏を活かしながら広々と整備された駒場公園が位置しており、海側では防風林となる樹林帯が形成され、これらの中には緑とふれあいを楽しめる”木の広場”が整備されているほか、野球場などが整備されている運動公園と併せて、緑あふれる豊かな憩い空間が位置する恵まれた環境にあります。
呼人地域 地域の現況	今後は、郊外型の住宅市街地としての基礎的な都市基盤の整備を進めながら、既存施設の集積を活かしたスポーツや健康を核にした交流拠点として位置付けていくとともに、「天都山エリア」との連携も視野に入れて、周囲に広がる水や緑の貴重な自然環境の保全と調和した市街地のあり方について共通認識を持つことが必要となっています。

④網走市立地適正化計画

計画期間	令和4年から令和23年まで
位置づけ	「網走市都市計画マスタープラン」の一部となり、北海道の都市計画区域の整備、開発及び保全の方針や、第6期網走市総合計画に即するとともに、都市全体の観点から都市機能の立地と公共交通の一体的な整備等に関する包括的なマスタープランとして、人口ビジョン、総合戦略をはじめ、多様な分野の計画と整合を図りながら策定する。
都市機能誘導区域	<p>医療・福祉・商業等の都市機能を都市の中心拠点や生活拠点に誘導し集約することにより、これらの各種サービスの効率的な提供が図られる区域である都市機能誘導区域は、中心市街地付近が指定されており、運動公園周辺や呼人地区は含まれていない。</p>  <p>※用途地域内の都市計画公園については、白抜きで表示しています。</p>

<p>居住誘導区域</p>	<p>人口減少の中にあっても一定のエリアにおいて人口密度を維持することにより、生活サービスやコミュニティが持続的に確保されるよう、居住を誘導すべき区域である居住誘導区域は、運動公園周辺が含まれているが、呼人地区は含まれていない。</p>  <p>※用途地域内の都市計画公園については、白抜きで表示しています。</p>
<p>誘導施設</p>	<p>都市機能誘導区域に立地を誘導すべき「誘導施設」として、行政、保健福祉、子育て、商業等の施設が指定され、スポーツ施設は指定されていない。</p>

⑤網走市公共施設等総合管理計画（改訂版）

計画の位置づけ	本市の公共施設等の今後のあり方について基本的な方向性を示すもの	
計画期間	平成27年度から令和26年度までの30年間	
スポーツ・レクリエーション施設についての記載内容		
施設の現状	管理者視点の状況	スポーツ施設については、総合体育館が建設後46年を経過し老朽化が進み、建物安全性が低い評価になっています。スポーツ・トレーニングフィールド内の管理棟、トイレ、倉庫などのハコモノ施設は、管理コストが高額なため経済性が低い評価になっています。 その他のスポーツ施設では、市営野球場管理棟が建設後42年を経過し、建物の老朽化が進んでいます。オホーツクドームは建設後23年を経過し、耐用年数を超えた膜屋根部分の老朽化が進んでいます。
	利用者視点の状況	施設の老朽化から、総合体育館及びスポーツ・トレーニングフィールドの箱物施設についても快適性（バリアフリーなど）の評価が低く、西地域プール、すばーく網走及びレイクサイドパークの通りの宿泊施設（パオ、コテージ）では、利用者が少ないことにより、施設活用度の評価が低くなっていますが、レイクサイドパークの通りの宿泊施設は近年のアウトドアブームの影響もあり利用者数が増えています。
	主要施設の簡易評価結果	<div><div>良い</div><div>利用者視点（ソフト）</div><div>総合体育館 市営野球場管理棟 スポーツ・トレーニングフィールド （管理棟、トイレ、倉庫） 呼人浦公衆トイレ</div><div>更新検討</div><div>維持継続</div><div>レイクサイドパークの通り、艇収納庫 レーク・ユースキ場ロッジ、市営陸上競技場（管理棟） オホーツクドーム、市営スケート場（記録室） こまば木の広場休憩舎 こまば木の広場公衆トイレ 市営桂町球場トイレ、運動公園トイレ、 モロ緑地トイレ、市民健康プール</div><div>利用検討</div><div>白鳥公園展望台・公衆トイレ 西地域プール、すばーく網走 藻琴パークゴルフ場トイレ、三眺河畔公園トイレ 公園管理詰所車庫、桂岡公衆トイレ 中央公園公衆トイレ、南公園公衆トイレ 大曲公園公衆トイレ、駒場公園公衆トイレ しおさい公園公衆トイレ 網走川河畔公園公衆トイレ ふれあい公園公衆トイレ 向陽ヶ丘第1公園公衆トイレ 向陽ヶ丘第2公園公衆トイレ 大曲湖畔園地休憩棟</div><div>該当なし</div><div>継続検討</div><div>悪い</div><div>利用状況</div><div>悪い</div><div>管理状況</div><div>良い</div><div>管理者視点（ハード）</div></div>
整備方針	総合体育館	老朽化が進んでおり、平成25年に耐震診断を実施し、耐震基準を満たしていないことを踏まえ、総合的な検討を進めます。
	スポーツ・トレーニングフィールド内管理棟、トイレ	施設全体のトータルコストの縮減などを検討した上で、バリアフリー化など環境改善を進めます。
	西地域プール	利用状況、利用予測、トータルコストを検証し、学校施設への集約化も含めた総合的な検討を進めます。
	市営野球場管理棟	市営野球場（駒場）及びスポーツ・トレーニングフィールド野球場（呼人）の2つの球場のあり方なども含め総合的な検討を進めます。
	すばーく網走	利用拡大の可能性や方策の検討を進めます。
	その他スポーツ施設	利用状況、トータルコストなどを検討した上で、必要な施設についてバリアフリー化や長寿命化などの取組みを進めます。

⑥個別施設計画（社会教育施設・スポーツ施設）

計画期間	令和3年度～令和12年度
位置づけ	本計画は、公共施設等総合管理計画と連動するもので、国の「インフラ長寿命化基本計画」に基づく個別施設ごとの長寿命化計画とする。
個別施設のマネジメント方針に示されている「施設の方向性」	
総合体育館	現在の機能を維持し多様化する利用ニーズに対応するため、長寿命化を図り、適正な維持管理を行っていきます。第1体育室（アリーナ）の耐震化等対策の時期や手法の検討を行います。
すぱーく網走	現在の機能を維持し多様化する利用ニーズに対応するため、長寿命化を図り、適正な維持管理を行っていきます。
網走市営野球場	
網走市営陸上競技場	
網走市営桂町球技場	
網走スポーツ・トレーニングフィールド	
オホーツクドーム	
網走市営スケート場	
網走市営スキー場	
網走市民健康プール	
網走西地域プール	
網走湖ポート場	現在の機能を維持し、長寿命化を図り、適正な維持管理を行っていきます。

⑦網走市都市公園等再編計画

計画策定の背景	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、網走市の市街地には79か所の公園があり、老朽化に加え人口減少等の時代やニーズの変化に伴い、整備当初に想定していた公園施設の機能が十分に発揮されていない状況や経年劣化等により多くの公園施設の更新が必要な時期を迎えています。 ・現在管理している数多くの公園は、維持管理費の圧縮に向けた維持管理形態の見直しを進めるほか、将来予測に基づく配置の整理や機能の集約化等の再編整備が必要と考えられます。
再編計画	<p>以下のとおりコンセプトを設定し整備を進めます。</p> <p>「①総合拠点型」：10公園 ⇒複合遊具の設置など、多くの市民が余暇を楽しめるような地域の拠点となる公園として整備します。主に敷地面積の大きな公園とし、以下の「②子育て支援型」「③多世代交流型」の機能を内包する公園となります。</p> <p>「②子育て支援型」：27公園 ⇒遊戯施設の整備を中心に児童や幼児が安全に遊ぶことのできる公園として整備します。</p> <p>「③多世代交流型」：46公園 ⇒町内会の行事など様々な目的に利用可能な緑地広場として整備します。遊戯施設は整備せず、休憩施設の設置や広場としての整備を行います。</p>
網走運動公園の再編計画	<p><u>再編後（コンセプト）：①総合拠点型</u></p> <p><u>基本方針：複合遊具の設置など、地域の拠点となる公園として整備を実施</u></p>

⑧網走市社会教育長期計画

計画期間	令和元（2019）年度から令和10（2028）年度までの10年間
基本理念	社会教育は、学びを通じて市民の「幸せに暮らしたい、安心して暮らしたい」の気持ちに応えます
目標5 スポーツを通じたまちづくりのための学び の内容	
1 生涯スポーツの推進	<p>基本方針：それぞれのライフステージや健康状態、目的に応じたスポーツや健康づくりの機会の充実を目指します。</p> <p>施策の展開：生涯スポーツを通じた健康づくりやコミュニティづくりのための環境整備や活動機会の提供</p> <p>主な取組：障がい者スポーツ教室、いきいき健康体力づくり教室、各種スポーツ教室の実施、こどもスポーツチャレンジ事業、スポーツ推進委員の活動の充実、日本体育大学との連携、スポーツ施設の整備・適正な維持管理</p>
2 スポーツ活動の推進	<p>基本方針：スポーツ団体・関係機関と連携し、スポーツ活動の底辺拡大、競技力向上を目指します。</p> <p>施策の展開：スポーツの普及、競技力向上のための学習機会の充実と環境整備</p> <p>おもな取組：スポーツ団体の支援、スポーツイベント開催・大会誘致、スポーツ合宿の推進、指導者の支援、少年団・中学・高校との連携・活動支援、日本体育大学との連携</p>

2-2. 網走市の情勢

(1) 人口・世帯数の推移

網走市の人口は減少が続いており、令和2年には35,759人となっています。

世帯数は概ね横ばいの傾向ですが、世帯人員数は少しずつ減少しています。

国立社会保障・人口問題研究所（以下、社人研）の推計では今後も減少が続き、令和32年には平成12年の人口の約半数である21,159人となることが予測されています。

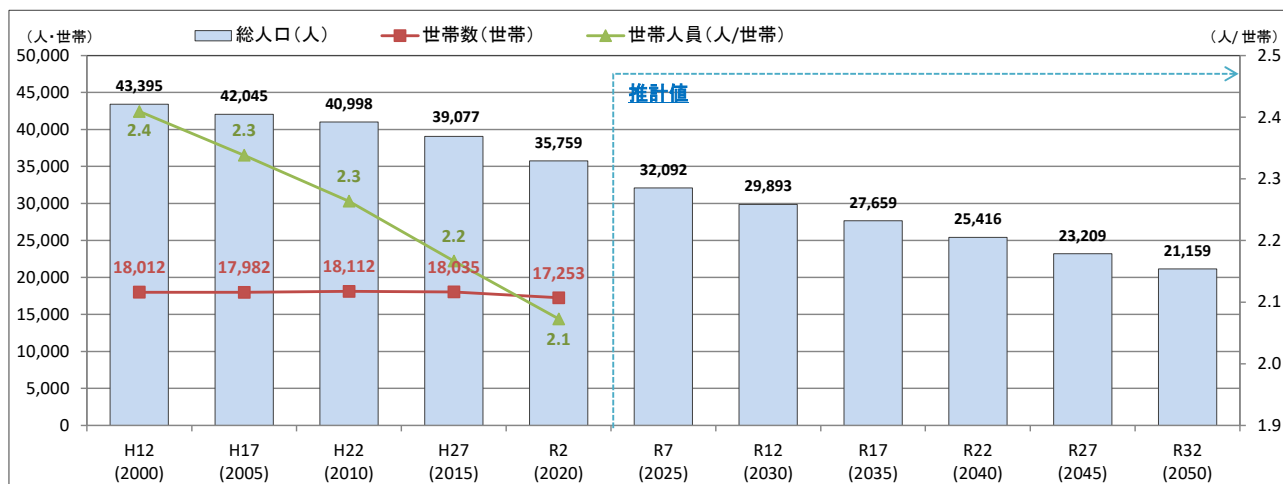


図 網走市の人口・世帯数の推移

資料：総務省「国勢調査」、社人研「日本の地域別将来推計人口」

(2) 年齢3区分別人口比率の推移

平成12年以降の年齢3区分別人口の比率をみると、年少人口割合の減少、老年人口割合の増加が進んでおり、令和2年の高齢化率は31.8%となっています。

社人研の推計によると、少子高齢化は今後も続き、令和32年の高齢化率は42.8%となることが予測されています。

これまでの推移、今後の推計とも、全道の傾向と大きな差はみられません。

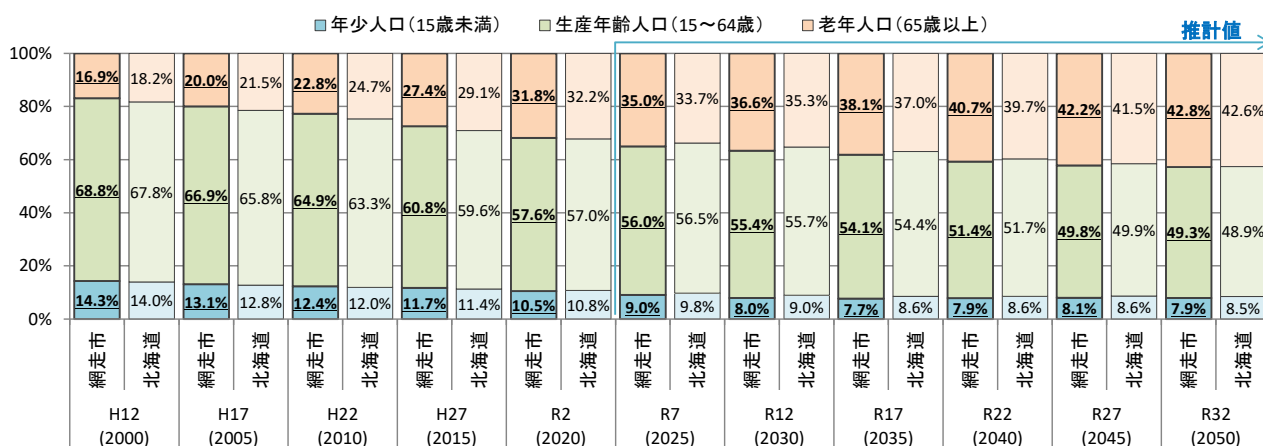


図 年齢3区分別人口の推移と今後の推計

資料：総務省「国勢調査」、社人研「日本の地域別将来推計人口」

2-3. 市内と近隣自治体におけるスポーツ施設の配置状況

東オホーツク圏域1市4町のスポーツ施設の立地状況は、以下のようになっており、網走市以外の4町については、多くの施設が役場の立地する市街地付近に立地しています。

また、網走市内のスポーツ施設は、運動公園および網走スポーツ・トレーニングフィールド内に多くが立地しています。

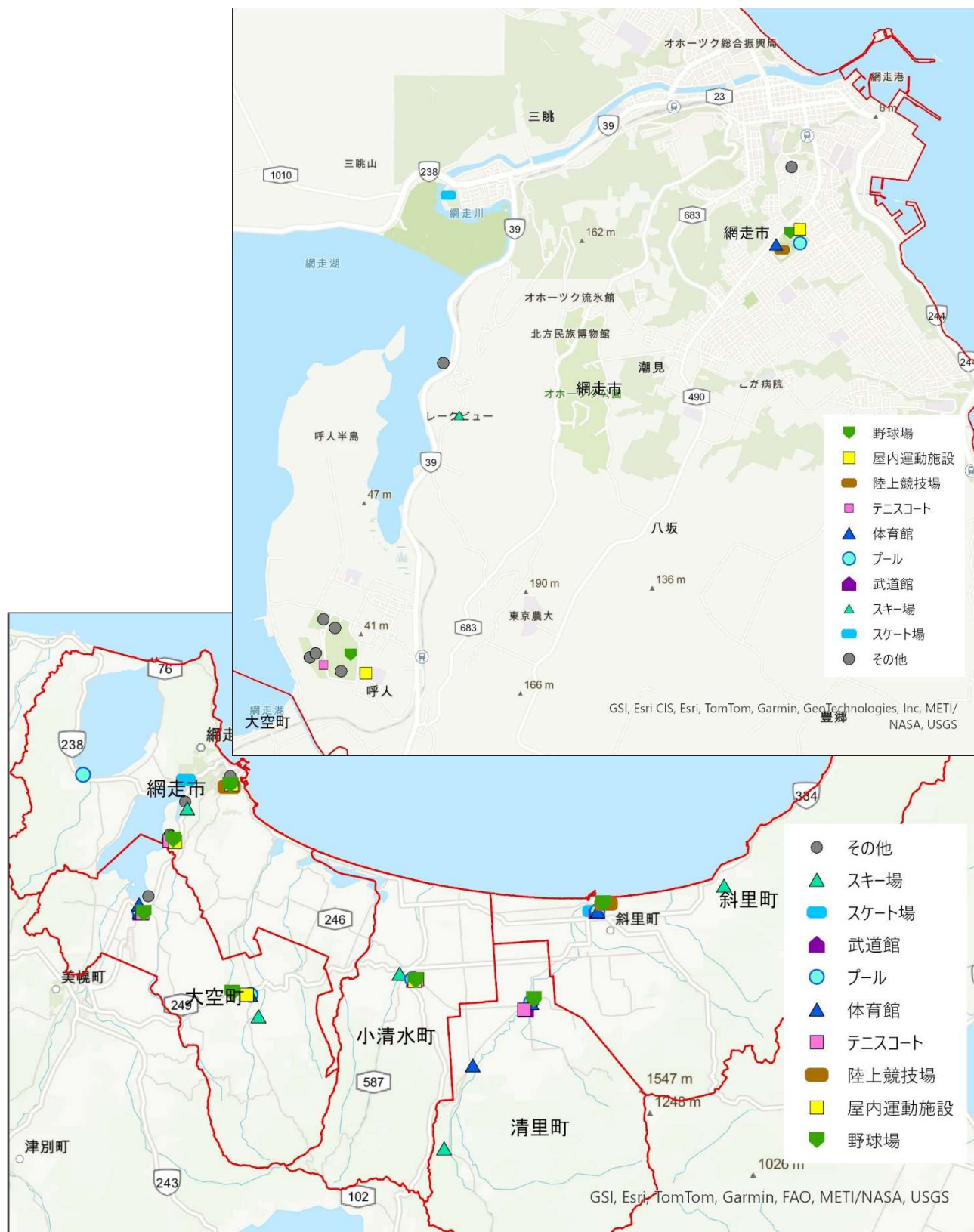


図 東オホーツク圏域1市4町におけるスポーツ施設の立地状況

2-4. 市有スポーツ施設の情報整理

ここでは、「網走市個別施設計画（社会教育施設・スポーツ施設）」でスポーツ施設として記載のある12施設を対象に情報整理を行います。

12施設の一覧と施設の役割、機能等は以下の通りです。

表 市有スポーツ施設の一覧と施設の役割、機能等

施設名称	施設の役割、機能等
網走市総合体育館	一般的な運動競技会の開催が可能な市内唯一の総合体育施設。
すばーく網走	全天候型の屋内運動場として、各種屋外競技の雨天・冬季練習施設として幅広く利用されている。
網走市営野球場	市街地にある野球場。ナイター設備を有する。
網走市営陸上競技場	日本陸連第三種公認の全天候型陸上競技場。
網走市営桂町球技場	市街地にある天然芝の練習場。
網走スポーツ・トレーニングフィールド	屋外複合スポーツ施設として各種競技に利用されるとともに、スポーツ合宿の中心施設である。
オホーツクドーム	全天候型の屋内練習場として、屋外競技の冬季練習施設として幅広く利用されている。
網走市営スケート場	市内唯一の公共スケート場として、一般利用や学校授業で利用されている。
網走市営スキー場	市内唯一のスキー場として、一般利用や学校授業で利用されている。
網走市民健康プール	日本水泳連盟公認25mプールを有する温水プール。
網走市西地域プール	一般利用のほか、地域の小中学校の授業等で利用されている。
網走湖ボート場	ボートコースは日本ボート協会の公認C級コース。高校生や大学生の練習、大会で利用されている。

施設の基本情報は以下の通りです。12施設のうち5施設が網走運動公園に、2施設がスポーツ・トレーニングフィールドに立地しています。築年数の状況を見ると、網走市営野球場および網走市営桂町球技場が法定耐用年数を超過しているほか、網走市総合体育館、網走市西地域プール、網走湖ボート場が法定耐用年数に近づいている（5年以内に耐用年数を超過する）状況にあります。

表 市有スポーツ施設の基本情報

施設名称	立地	代表建築物名	竣工年	築年数	延床面積 (㎡)	主体 構造	法定 耐用年数
網走市総合体育館	網走運動公園	体育館	1976	49	5,173.1	RC	50
すばーく網走	網走運動公園	すばーく網走	1992	33	1,181.8	S	38
網走市営野球場	網走運動公園	管理棟	1980	45	129.0	W	24
網走市営陸上競技場	網走運動公園	管理棟	2009	16	329.3	S	38
網走市営桂町球技場	市街地	トイレ	1996	29	33.0	W	24
網走スポーツ・トレーニングフィールド	スポーツ・トレーニングフィールド	センターハウス管理棟	1992	33	592.0	RC	50
オホーツクドーム	スポーツ・トレーニングフィールド	オホーツクドーム	1998	27	3,344.4	RC	50
網走市営スケート場	市街地	管理棟	1998	27	158.5	LS	38
網走市営スキー場	呼人地区	ロッジ	1992	33	790.0	RC	50
網走市民健康プール	網走運動公園	プール	2015	10	2,533.1	RC	50
網走市西地域プール	その他	プール	1989	36	669.1	S	38
網走湖ボート場	呼人地区	艇収納庫	1989	36	79.5	LS	38

※施設に複数の建築物がある場合、延床面積が最大の建築物を代表建築物としています。

2-5. 網走運動公園の整備の経緯

網走運動公園の施設整備の状況について、年表にまとめると以下のようになります。

昭和 29 年の総合グラウンド開設にはじまり、昭和 40 年代～平成初期にかけて多くの施設が整備されました。近年では、平成 25 年に市営庭球場が利用者の減少や施設の老朽化を受けて閉鎖され、平成 27 年には網走市民健康プールが建替えられました。

表 網走運動公園 整備の経緯

年	施設	内容
昭和22		陸上競技連盟、野球連盟、庭球協会等が市長に総合グラウンドの早期実現を請願
昭和27		総合グラウンドの造成に着手（5か年計画）
昭和29	市営野球場	グラウンド完成、開設
昭和44	市営庭球場	クレートコート6面開設
昭和46～49	市営野球場	内野整備、外野整備
昭和51	総合体育館	落成式
昭和51	陸上競技場	400mトラック、管理棟
昭和52～53	運動公園	遊園地整備
昭和54	市営野球場	内・外野スタンド、ダッグアウト、役員室、管理棟、スコアボード（収容人員7,000人）
昭和55	運動公園	園路（ジョギングコース全長1.2km）
昭和59	市民プール	開設（4月1日～11月30日）※日本水泳連盟認定標準プール
昭和60	運動公園	園路照明（7箇所）パークゴルフ場（18ホール）
平成4	屋内ゲートボール場	開設
平成13	陸上競技場	全天候トラック改修（3種公認トラック）、管理棟新築、器具庫、写真判定塔 ※平成14年5月オープン
平成25	市営庭球場	閉鎖（利用者の減少、施設の老朽化）
平成26	市民プール	建て替えのため閉鎖
平成27	市民プール	網走市民健康プール オープン

2-6. 網走市におけるスポーツ施設の課題

現在、スポーツ施設には、健康増進・地方創生、まちづくりなど、様々な役割を担うことが期待されており、人口減少や少子高齢化に伴うニーズの変化、施設の老朽化に対応しながら、持続可能なスポーツ環境を確保することが求められています。

網走市も全国的な傾向と同様に、人口減少や少子高齢化が進む一方で、公共施設の維持管理コストの負担が大きい状況にあります。網走市のスポーツ施設についても、「網走市公共施設等総合管理計画」において施設の将来的なあり方の検討を進めてきましたが、今後は個別の施設について、施設の維持・統合・移転・廃止等の方針を定めることが必要です。

本構想においては、網走市で利用者の多いスポーツ施設が集積している網走運動公園を中心に、今後の施設のあり方を位置付けることとします。

2-7. 検討対象施設の設定

本構想では、網走運動公園に立地するスポーツ施設を検討対象とするほか、網走運動公園に立地するスポーツ施設の統合を検討する上で、網走運動公園のスポーツ施設と機能や役割が重複する市内の施設を検討対象として追加します。

役割が重複するのは、網走スポーツ・トレーニングフィールド野球場（網走市営野球場と重複）、オホーツクドーム（すぱーく網走と重複）、網走市西地域プール（網走市民健康プールと重複）の3施設です。

このうち、網走市西地域プールは重複している網走市民健康プールが新しいことから、本構想では検討対象外とし、以下の7施設を検討対象施設とします。

- | | |
|-------------|-------------------------|
| ・ 網走市総合体育館 | ・ 網走市営陸上競技場 |
| ・ 網走市営野球場 | ・ 網走スポーツ・トレーニングフィールド野球場 |
| ・ 網走市民健康プール | ・ オホーツクドーム |
| ・ すぱーく網走 | |

※網走スポーツ・トレーニングフィールド野球場は、以下、「スポトレ野球場」と表記します。

3. 検討対象施設の利用状況等の把握

ここでは、検討対象施設の利用状況や維持管理費の推移について、把握します。

3-1. 利用者数の推移

検討対象施設について、平成27年度以降の利用者数の推移をみると、期間を通じて網走市総合体育館の利用者が最も多く、次いで網走市民健康プールとなっています。

網走市総合体育館や網走市民健康プールは令和2年度～令和4年度にかけてコロナ禍の影響で利用者が大きく減少しており、それ以降も以前の利用者数に回復するには至っていません。また、すぱーく網走、網走市営野球場、スポトレ野球場は利用者が1万人に満たず、いずれも減少傾向にあります。

表 利用者数の推移

単位：人

施設名称	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
網走市総合体育館	67,662	78,374	78,887	80,548	72,346	51,209	44,755	52,947	65,256	65,104
すぱーく網走	7,619	7,850	7,891	6,931	5,949	6,831	5,733	6,970	5,575	5,748
網走市営野球場	5,860	6,524	6,562	7,239	5,931	4,001	3,289	4,527	3,212	2,888
網走市営陸上競技場	22,860	24,567	25,856	26,236	30,128	23,000	22,468	31,549	29,881	28,404
スポトレ野球場	4,187	7,007	5,401	6,965	5,796	5,030	4,749	5,244	4,251	3,336
オホーツクドーム	21,286	22,867	24,301	24,562	15,817	15,195	12,150	13,975	12,994	13,941
網走市民健康プール	47,604	55,196	56,986	54,319	52,973	43,125	38,408	42,992	43,252	44,240

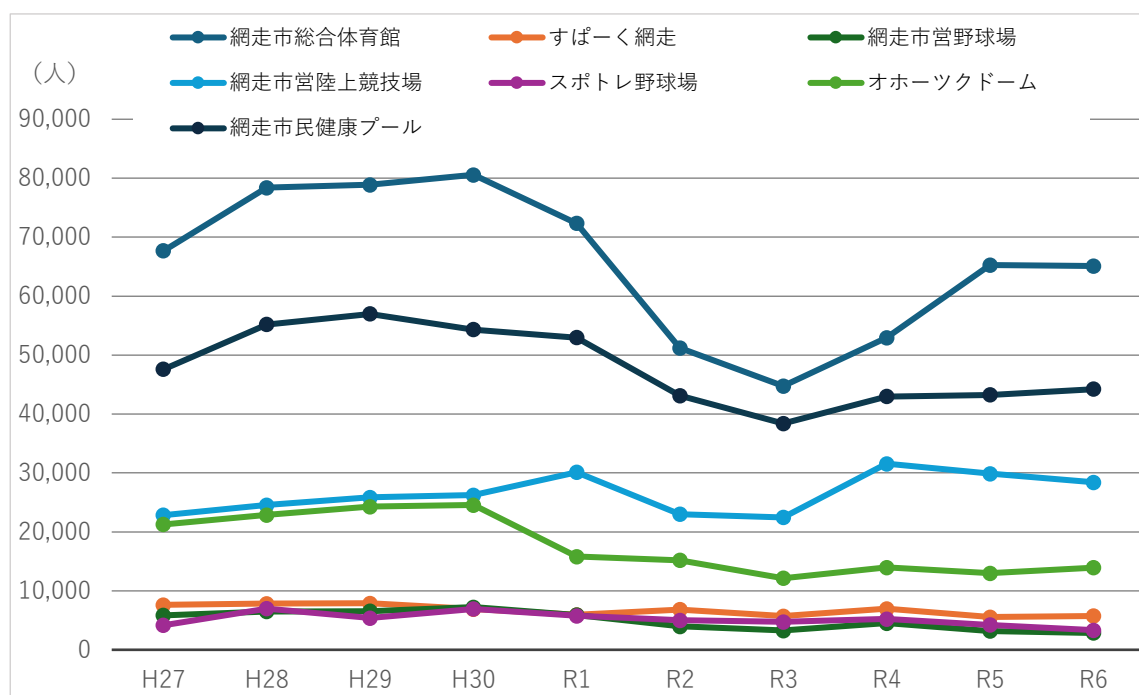


図 利用者数の推移

3-2. 稼働状況の推移

検討対象施設について、平成27年度以降の稼働率（開設日数に占める実使用日数の割合）をみると、網走市総合体育館、網走市営陸上競技場、網走市民健康プールはいずれの年度も100%、すぱーく網走は80~95%程度、オホーツクドームは70~90%程度、網走市営野球場は60~70%程度で推移しています。また、スポトレ野球場の稼働率は近年減少傾向にあり、令和5年度以降は50%に満たない状況です。

表 稼働状況の推移

単位：％

施設名称	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
網走市総合体育館	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
すぱーく網走	87.1%	89.3%	89.0%	91.2%	87.8%	91.3%	96.3%	81.6%	85.4%	82.4%
網走市営野球場	62.7%	62.4%	72.4%	62.9%	61.8%	66.4%	66.7%	66.1%	48.9%	56.8%
網走市営陸上競技場	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
スポトレ野球場	58.8%	65.2%	77.2%	61.6%	56.9%	71.1%	21.1%	62.1%	42.4%	37.5%
オホーツクドーム	81.5%	84.1%	87.7%	87.3%	85.0%	90.9%	85.9%	86.6%	85.2%	73.0%
網走市民健康プール	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

3-3. スポーツ大会等の開催状況

検討対象施設について、令和6年度のスポーツ大会の開催状況をみると、網走市総合体育館が開催日数、参加者延べ人数ともに最も多く、次いで網走市営陸上競技場となっています。

また、網走市総合体育館では、催し物も6日間開催されています。

表 スポーツ大会等の開催状況（令和6年度）

施設名称	スポーツ大会の開催状況				催し物の開催状況	
	開催 日数	うち 全道大会	うち 管内大会	参加者 延べ人数	開催 日数	参加者 延べ人数
網走市総合体育館	86日	6日	80日	11,202人	6日	1,600人
すぱーく網走	2日	0日	2日	160人		
網走市営野球場	9日	0日	9日	425人		
網走市営陸上競技場	18日	3日	15日	6,930人		
スポトレ野球場	16日	6日	10日	1,380人		
オホーツクドーム	2日	0日	2日	300人		
網走市民健康プール	3日	0日	3日	544人		

3-4. 維持管理費の推移

検討対象施設について、平成27～令和6年度の維持管理費※の推移をみると、改修の実施時期により増減が大きくなっていますが、10年間の合計額をみると、網走市総合体育館が最も高く、次いで網走市民健康プール、オホーツクドームとなっています。

※各施設の建物や設備に起因する費用である燃料費、光熱水費、修繕費、改修費を維持管理費として計上しています。
※網走スポーツ・トレーニングフィールドは、施設全体の費用を一括して計上しています。

表 維持管理費の推移

単位：千円

施設名称	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
網走市総合体育館	67,929	22,216	41,586	20,296	21,301	63,136	56,001	43,342	37,808	27,287
すばーく網走	1,764	2,109	2,256	2,150	15,286	1,812	2,132	2,436	2,899	4,063
網走市営野球場	2,165	3,073	2,149	2,101	2,944	1,885	1,980	1,935	2,231	2,432
網走市営陸上競技場	5,041	270	3,153	296	301	23,210	336	262	231	22,103
網走スポーツ・トレーニングフィールド	2,891	2,954	3,279	3,979	3,470	2,636	3,683	83,682	4,130	4,230
オホーツクドーム	13,965	16,569	17,944	17,258	16,840	46,780	22,623	20,049	18,814	19,302
網走市民健康プール	25,713	31,578	27,782	29,353	31,435	26,254	28,594	34,721	43,287	38,355

単位：千円

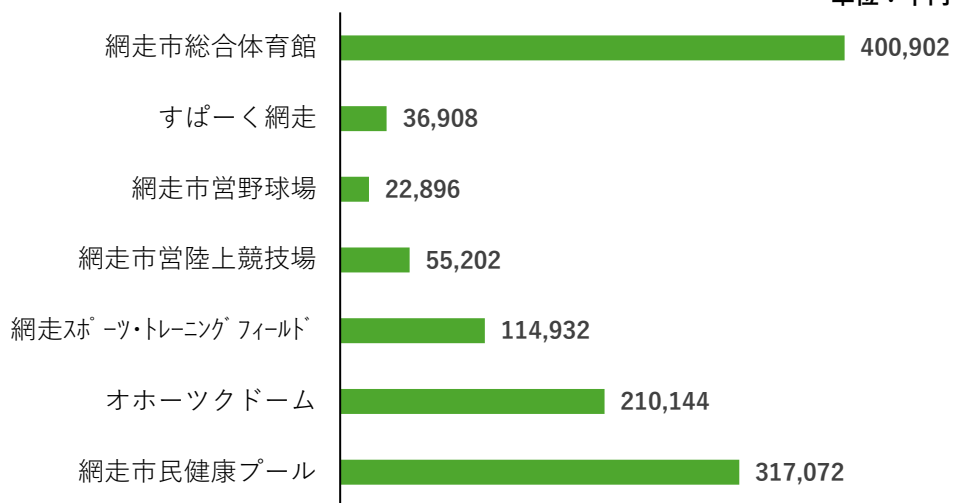


図 維持管理費（平成27年度～令和6年度の合計額）

検討対象施設について、平成27～令和6年度の利用者1人あたりの維持管理費の推移をみると、改修の実施時期により増減が大きくなっていますが、10年間の合計額をみると、オホーツクドームが最も高く、次いで網走市民健康プール、網走市総合体育館となっています。

※網走スポーツ・トレーニングフィールドは、施設全体の利用者数のデータがないため集計の対象外としている。

表 利用者1人あたり維持管理費の推移

単位：円/人

施設名称	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
網走市総合体育館	1,004	283	527	252	294	1,233	1,251	819	579	419
すばーく網走	232	269	286	310	2,570	265	372	350	520	707
網走市営野球場	369	471	328	290	496	471	602	428	695	842
網走市営陸上競技場	221	11	122	11	10	1,009	15	8	8	778
オホーツクドーム	656	725	738	703	1,065	3,079	1,862	1,435	1,448	1,385
網走市民健康プール	540	572	488	540	593	609	744	808	1,001	867

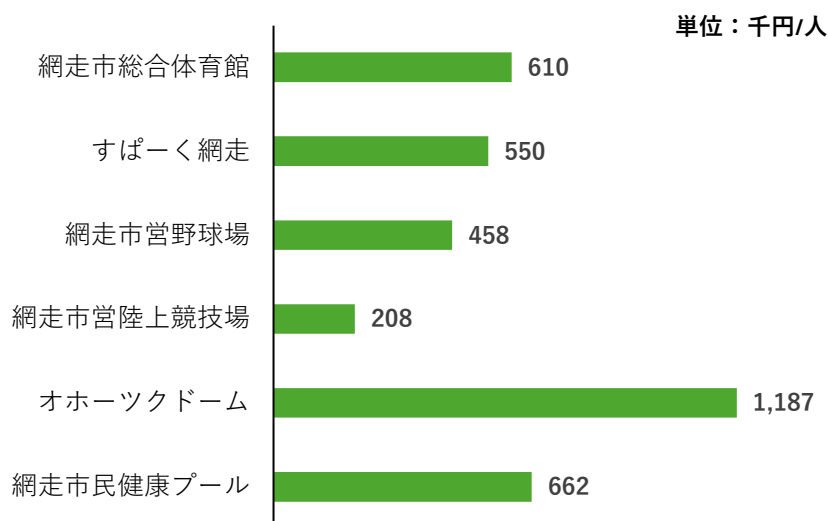


図 利用者1人あたり維持管理費の推移（平成27年度～令和6年度の平均額）

4. 各施設の活用方針

4-1. 活用方針の検討方法

ここでは「建物状況」、「活用度」の2つの観点から各施設の評価を行い、評価結果を踏まえて、活用方針を検討します。

網走市の人口減少を踏まえると、スポーツ施設の施設総量の削減が必要であることから、活用度が少ない施設のうち、建物状況が「利用上の問題あり」と判定される施設は、「優先的な統合・廃止」を行い、「劣化あり」と判定される施設は「統合・廃止」、「一部劣化あり」と判定される施設は「統合の検討」を行います。

これらの施設は、重複する機能を有する施設の動向を踏まえ、活用方針を個別に判断します。

表 活用方針の検討方法

建物状況 活用度	問題なし	一部劣化あり	劣化あり	利用上の 問題あり
高い	継続使用	改善	建替再整備	優先的な 建替再整備
低い		統合の検討	統合・廃止	優先的な 統合・廃止

重複機能を有する施設の動向を踏まえ、
個別に判断

4-2. 建物状況の評価結果

「建物状況」は劣化度状況調査（令和7年7月実施）の結果を踏まえて判定します。

各施設とも「建築」「電気設備」「機械設備」「外構」「耐震性」の5項目で評価を行います。

評価はA・B・C・Dの4段階評価とし、各項目の判定を踏まえて総合評価を判定します。

評価基準 A：大きな劣化なし

B：一部で劣化が進行している

C：劣化が進行している

D：劣化により施設利用上の問題がある

（１）網走市総合体育館

【建築】

外部、内部共に、全体的に劣化や破損の発生がみられる。特に、漏水やガラスの破損などが多数見られたが、運動施設として競技を行うことについては大きな支障はない。→判定：C

【電気設備】

多くの設備が計画更新年数を超過しているため、計画的な更新が望ましい。また、アリーナ以外の照明器具が蛍光灯のため、LED化改修を行うことが望ましい。→判定：C

【機械設備】

機械設備は、多くの設備が計画更新年数を超過しているため、計画的な更新が望ましい。特にボイラー室の機器は全面的な機器更新が望ましい。→判定：C

【耐震性】

1976年竣工の旧耐震基準の建築物であり、2015年に実施した耐震診断において、耐震性を有さない部分があると判定された。→判定：耐震性なし

【総合評価】

竣工から45年程度経過しており、運動施設として競技を行う範囲については異常はないが、計画更新年数を大幅に超過した設備機器が多数見られたこと、耐震性を有さない部分がみられる状況である。→判定：劣化あり



＜塗装の剥がれ＞



＜漏水による体育館内壁の破損＞



＜照明が蛍光灯のまま＞



＜機械室機器の老朽化＞

(2) 網走市宮野球場

【建築】

全体的に劣化が著しく、漏水による雑草の繁茂や錆の進行がみられる。特に本部席は劣化が著しいため、施設利用上の問題がある。→判定：D

【電気設備】

経年劣化が多くみられ、特に照明器具については全てが蛍光灯のためLED化改修を行うことが望ましい。→判定：B

【機械設備】

すべての機器に重度の劣化がみられた。現時点で利用上の問題は生じていないが、継続して利用するためには全面的な機器更新が望ましい。→判定：C

【外構】

全体的に整備後の経過年数に伴う劣化がみられるが、特に門扉、本部席盛土の擁壁、一塁側・三塁側の木製スタンドベンチは早急に更新、修繕が望ましい。→判定：C

【耐震性】

1976年竣工の旧耐震基準の建築物であり、耐震診断も未実施である。

→判定：耐震性なし

【まとめ】

竣工から45年程度経過しており、すべての部位について劣化が著しい状況であり、施設利用上の問題も生じている。→判定：利用上の問題あり



<漏水>



<擁壁の破損>



<電灯分電盤の劣化>



<機器の老朽化>

(3) すばーく網走

【建築】

外部の劣化が著しく、特に軒天部分の板金は錆の進行が見られた。劣化進行によって板金が剥落する危険があるため、施設利用上の問題がある。また軒天の断熱材が鳥によって食い破られ、天井内で営巣されている箇所が多数見られたため、断熱性能の低下や雨風が室内に入る恐れがある。内部は、運動場床材の劣化進行により運動施設としての機能を損ねる恐れがある。→判定：D

【電気設備】

設備の多くが計画更新を超過しているため、計画的な更新が望ましい。また照明器具は全て蛍光灯のためLED化改修を行うことが望ましい。→判定：C

【機械設備】

一部暖房設備の更新が行われているが、その他の設備の多くが計画更新年数を超過しているため、計画的な更新が望ましい。また、冷房設備がなく、室内が高温となり、夏季に競技を行ううえで利用上の問題がある。→判定：D

【耐震性】

1992年竣工の新耐震基準の建築物である→判定：耐震性あり

【まとめ】

板金の錆や床材の劣化の進行、軒天の劣化、梁の位置が低く実施できる競技が制限されるなど、競技スペースに異常や不備があり、施設利用上の問題が生じている。→判定：利用上の問題あり



＜板金の劣化＞



＜運動場床材の劣化＞



＜電灯分電盤の劣化＞



＜未更新の暖房機＞

（４）網走市民健康プール

【建築】

外壁の大きな劣化はみられないが、屋上は水溜りやドレンの詰まりが確認された。

内部では、ロビー・多目的室の天井で漏水の跡が確認された。壁材の剥がれは少々みられるが施設利用上の支障となる劣化箇所はみられない。→判定：A

【電気設備】

特に問題はみられない。→判定：A

【機械設備】

特に問題はみられない。→判定：A

【耐震性】

2015 年竣工の新耐震基準の建築物である→判定：耐震性あり

【まとめ】

竣工からの経過年数に応じた劣化進行状況であり、大きな劣化は見られなかった。屋上には水溜りやドレンの詰まりが見られたが、定期的な点検と清掃によって劣化進行を防ぐことが望ましい。

→判定：問題なし



＜屋上の水溜まり＞



＜底の排水側溝の詰まり＞

(5) 網走市宮陸上競技場（管理棟）

【建築】

外部には、ほとんど異常が見られない。内部は床のクラックが多数みられた。壁材の剥がれなどは一部みられるが施設利用上の支障となるような劣化は見られない。→判定：A

【電気設備】

軽度の経年劣化がみられた。照明器具については全てが蛍光灯のためLED化改修を行うことが望ましい。→判定：B

【機械設備】

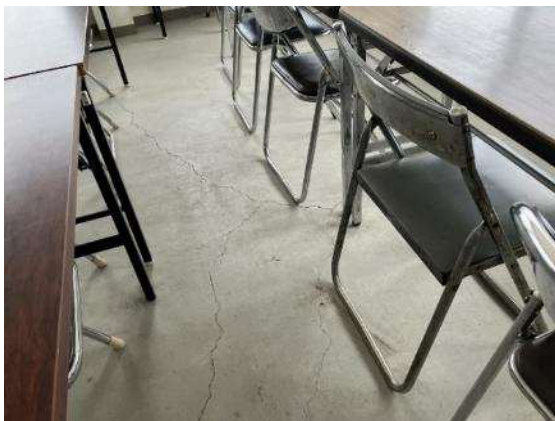
特に問題はみられない。→判定：A

【耐震性】

2009年竣工の新耐震基準の建築物である→判定：耐震性あり

【まとめ】

竣工からの経過年数に応じた劣化進行状況であり、大きな劣化は見られなかった。内部床クラックは構造的には問題ないことが想定されるため、経過観察することが望ましい。→判定：問題なし



<2階床クラック>



<蛍光灯のまま>

(6) オホーツクドーム

【建築】

膜屋根の破損による漏水や、回転扉からの異音など、特殊な設備の破損や劣化が見られた。膜屋根は竣工からの経過年数が経過しており、全面的な劣化が想定され、今後継続して使うためには全面の撤去新設が望ましいが、膜の交換には多大な費用が掛かることから、膜構造としない通常のドームとして建て替えを行うのが妥当と判断される。内装についても、特にドーム床材の劣化が著しいため、運動施設として利用上の支障がある。→判定：D

【電気設備】

多くの設備が計画更新年数を超過しており、計画的な更新が望ましい。また、アリーナ以外の諸室の照明器具が蛍光灯のため、LED化改修が望ましい。→判定：C

【機械設備】

全体として計画更新年数を超過しているため、計画的な更新が望ましい。また、冷房設備がなく、室内が高温となり、夏季に競技を行ううえで利用上の問題がある。→判定：D

【耐震性】

1998年竣工の新耐震基準の建築物である→判定：耐震性あり

【まとめ】

床材の劣化や漏水、冷房を備えていないなど、競技スペースに異常や不備がある状況であり施設利用上の問題が生じている。→判定：利用上の問題あり



＜膜屋根の漏水＞



＜漏水による建具枠の破損＞



＜受変電設備の劣化＞



＜機械室機器の老朽化＞

(7) スポトレ野球場

【建築】

経過年数に応じた劣化進行状況といえるが、漏水などによって一部特に劣化が進行している箇所が見られる。バックスクリーンは、錆の進行が著しいため、継続利用するには全面的な塗装の塗替えが望ましい。→判定：B

【電気設備】

経年劣化が多くみられる。特に照明器具については全てが蛍光灯のためLED化改修を行うことが望ましい。→判定：B

【機械設備】

多くの設備が計画更新年数を超過しているため、計画的な更新が望ましい。→判定：C

【外構】

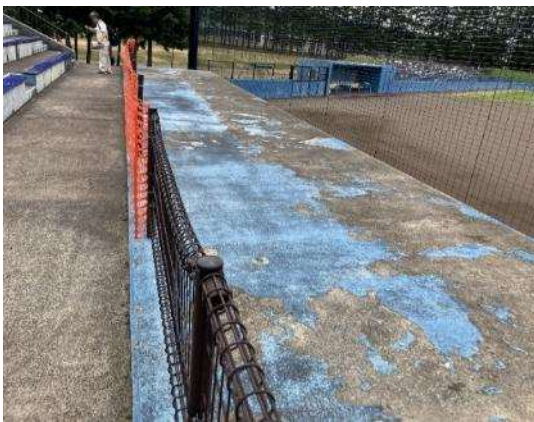
全体的に大きくは健全度が損なわれていないが、本部席天端のフェンスのパネル部が脱落しており、早急に更新することが望ましい。→判定：B

【耐震性】

1992年竣工の新耐震基準の建築物である→判定：耐震性あり

【まとめ】

今後継続して施設利用を続けるためには、劣化が進行しないうちに、内外装の更新と、各設備機器の更新、外構工作物の一部更新を行うことが望ましい。→判定：一部劣化あり



＜塗装の剥がれ＞



＜フェンスの脱落＞



＜放送設備の劣化＞



＜機器の老朽化＞

劣化度状況調査の結果を踏まえた、各施設の建物状況の評価結果は以下の通りです。

表 各施設の評価結果

	建築	電気設備	機械設備	外構	耐震性	総合評価
網走市総合体育館	C	C	C	—	なし	劣化あり
網走市営野球場	D	B	C	C	なし	利用上の問題あり
すぱーく網走	D	C	D	—	あり	利用上の問題あり
網走市民健康プール	A	A	A	—	あり	問題なし
網走市営陸上競技場	A	B	A	—	あり	問題なし
オホーツクドーム	D	C	D	—	あり	利用上の問題あり
スポトレ野球場	B	B	C	B	あり	一部劣化あり

評価基準 A：大きな劣化なし

B：一部で劣化が進行している

C：劣化が進行している

D：劣化により施設利用上の問題がある

4-3. 活用度の評価結果

「活用度」は、以下の3項目を踏まえて判定します。

ここでの「活用度」は、あくまで検討対象の7施設の相対評価であり、低いと判定された施設であっても、直ちに廃止と結論付けることはしません。

表「活用度」の調査項目

評価項目	評価方法
施設利用者数	・過去10年間にける年間利用者数の平均値を集計し、利用者数が多いほど高評価とする。
稼働率	・過去10年間にける、施設の開設日数に占める実使用日数の割合を集計し、割合が高いほど高評価とする。
スポーツ大会の開催日数	・全道やオホーツク総合振興局管内からの広域利用が見込まれる、スポーツ大会の開催日数が多い施設を高評価とする。 ・令和6年度の大会の開催状況より集計する。

各施設の評価結果は以下のようになります。判定にあたっては、各評価項目について偏差値※を算出し、平均の偏差値が50以上の施設を活用度が「高い」、50未満の施設を活用度が「低い」としました。

※偏差値：ある値が平均からどれくらい離れているかを表す指標。平均値は偏差値50で、数値が高いほど評価が高くなる。

表「活用度」の調査結果

施設名称	利用者数 (人/年)		稼働率(%)		スポーツ大会の 開催日数(日)		平均 偏差値	判定
		偏差値		偏差値		偏差値		
網走市総合体育館	65,709	68.6	100.0	59.1	86	73.9	67.2	高い
すぱーく網走	6,710	41.7	87.9	52.1	2	43.7	45.8	低い
網走市営野球場	5,003	40.9	62.4	37.2	9	46.3	41.5	低い
網走市営陸上競技場	26,495	50.7	100.0	59.1	18	49.5	53.1	高い
スポトレ野球場	5,197	41.0	55.3	33.2	16	48.8	41.0	低い
オホーツクドーム	17,709	46.7	84.6	50.2	2	43.7	46.9	低い
網走市民健康プール	47,910	60.5	100.0	59.1	3	44.1	54.6	高い

4-4. 施設評価の結果

評価を整理した結果、網走市営陸上競技場、網走市民健康プールは「継続使用」、網走市総合体育館は「建替再整備」、スポトレ野球場は「統合の検討」、すぱーく網走、網走市営野球場、オホーツクドームは「優先的な統合・廃止」という活用方針となりました。

表 施設評価の結果

建物状況 活用度	問題なし	一部劣化あり	劣化あり	利用上の問題あり
高い	<ul style="list-style-type: none"> ・網走市営陸上競技場 ・網走市民健康プール →継続使用		<ul style="list-style-type: none"> ・網走市総合体育館 →建替再整備	
低い		<ul style="list-style-type: none"> ・スポトレ野球場 →統合の検討		<ul style="list-style-type: none"> ・すぱーく網走 ・網走市営野球場 ・オホーツクドーム →優先的な統合・廃止

評価結果を踏まえた、各施設の活用方針は以下の通りです。

表 各施設の活用方針

施設名称	活用方針	内容
網走市総合体育館	建替再整備	<ul style="list-style-type: none"> ・建物状況が悪い一方、活用度が高い施設のため、建替再整備を図る。
すぱーく網走	優先的な統合・廃止	<ul style="list-style-type: none"> ・2施設共に、建物状況、活用度のいずれの評価も低いため、優先的に2施設を集約化し、利用者数に見合った規模への建替再整備を図る。
オホーツクドーム	優先的な統合・廃止	
網走市営野球場	優先的な統合・廃止	<ul style="list-style-type: none"> ・建物状況、活用度のいずれの評価も低い、スポトレ野球場は一部劣化に留まるため、スポトレ野球場を改修、照明等の設備の充実を図るとともに、機能の集約化を図る。
スポトレ野球場	統合の検討	
網走市営陸上競技場	継続使用	<ul style="list-style-type: none"> ・建物状況、活用度ともに高く、今後とも施設の長寿命化を図ることで施設機能を保持する。
網走市民健康プール	継続使用	<ul style="list-style-type: none"> ・建物状況、活用度ともに高く、今後とも施設の長寿命化を図ることで施設機能を保持する。

再整備の今後約 10 年間の進め方を表形式で示すと以下の通りとなります。

表 再整備の進め方

新屋内運動施設	計画・設計	建設工事
すばーく網走	除却工事	
オホーツクドーム	除却工事	
スポトレ野球場	照明設置 改修工事	
網走市営野球場	除却工事 駐車場整備	
新総合体育館		建設工事
網走市 総合体育館		除却工事 駐車場整備

5－2．今後の検討課題

本構想においては、検討対象とした7施設について、活用方針や再整備の進め方を示しました。

今後、個別施設の再整備を具体的に検討する際に、以下の内容について詳細検討を行っていきます。

- ・施設利用団体や市民ニーズを踏まえた導入機能や必要面積の検討
- ・施設整備や維持管理・運営手法の検討
- ・既存施設の継続利用に配慮した配置計画の検討
- ・施設整備にあたって活用可能な交付金・補助金等の検討

資料

網走運動公園再整備構想検討協議会委員

番号	氏 名	所属団体・職業	選出区分	
1	多田 吾郎	(一財) 網走市スポーツ協会 会長	スポーツ	
2	中田 光哉	網走市スポーツ推進審議会 委員	スポーツ	
3	佐々木 英明	網走市スポーツ推進委員 委員長	スポーツ	
4	山根 伸也	網走市健康推進員協議会 会長	健康	
5	永倉 一之	網走市社会福祉協議会 事務局長	福祉	
6	白濱 敏	網走商工会議所 専務理事	商工	令和7年11月17日まで
	川畑 学	網走商工会議所 専務理事		令和7年11月18日から
7	山下 一夫	網走市町内会連合会 副会長	地域	
8	馬淵 淳一	網走野球連盟 会長	野球	
9	山崎 ひとみ	市民公募	公募	
10	堀田 国男	市民公募	公募	

